

平成25年度香川大学卒業式 学長告辞

ここ香川の地にも春の足音は日ごとに高らかとなり、巧みな自然の営みに勇気づけられます。

その希望に満ちた春の到来とともに、本日、ご来賓をお迎えし、平成25年度香川大学卒業式を挙行できますことは、本学教職員一同、無上の慶びとするところであります。

ただいま学位記を授与されました1,238名の皆さん、学位記取得誠におめでとうございます。今皆さんの胸中には、在学中の様々な思い出が去来している事と思います。

皆さんをこれまで支援してこられたご家族や関係の皆様方にも、心からお祝いを申し上げます。

そして、この学位記授与に至るまで、指導ならびに支援をしてこられた全学の教職員の方々にも、深甚の謝意を表します。

さて、今、社会へあるいは研究室へと将来に夢を馳せている皆さんを待っているのはどのような世界でしょうか。

現在は、政治、経済、文化、情報、教育研究、人材交流などに国境、領域はなく、まさに地球人時代と呼ばれるグローバル化社会になっています。一国あるいは一地域の変化が、瞬く間に全世界に拡大・影響しあい、情報通信の高度化で、その時その場で世界の変化がわかる時代になっています。

日本の現状に目を向けますと、アジア・太平洋時代という全く新しい時代が始まり、世界第6位と言われる日本の領海資源が注目される一方、東日本復興やエネルギー問題、急速に進行している少子高齢化社会など、これといった抜本的な解決策が見つからない予測不可能な社会が続くと予想されます。

そのような先が見通せない時代、価値観が多様化した時代を生き抜くためにはどのような考え方が皆さんの参考

になるか、考えてみましょう。

まず、皆さんを勇気づけるお話しをしましょう。日本は、意外なことに遺伝子の分野では、世界でも多様性に富む国として知られています。日本人には、母親からしか受け継がれないミトコンドリア DNA が約20種類あって、それは欧州人の2倍にあたるそうです。大陸に隣接する日本列島には、古来色々なルートで人々が移り住んできて、多様な遺伝子が受け継がれているという事です。

皆さん一人一人には、ご先祖・ご両親から受け継いだ多様な遺伝子が既に内在しており、最も感受性の研ぎ澄まされた4年ないし6年の大学在学期間中に学修した教養、専門知識やフィールドワーク、サークル活動、ボランティアなどでの経験をプラスすると、潜在能力がさらに多様性と可能性を持ち、皆さんの人生の選択肢と目標が豊かなものになると思うのです。

既に就職の決まった方々も、その組織の人間としてル

ーティンワークを無難にこなす事に満足するのではなく、内在し、おずおずする自己能力を開花させ、組織の中でも一味違った独創性や個性を持ったきらりと光る人間になっていただきたい。

もう一つ、皆さんに参考になるお話しをしましょう。

私は、偉業を成し遂げたアスリートの人生哲学も、一つのヒントになると思います。昨年8月に米大リーグ、ヤンキースのイチロー外野手が、日米通算4,000本安打を達成しました。長年、彼のバッティングピッチャーをされていた方のお話を聞く機会がありました。その方によりますと、“イチローは常にプラス思考を持ち続けている。自分に何が必要なのか、毎日、自分自身に問いかけをしながら行動している。頑張れば手が届く所に目標をおき、それを達成することによって、充実した毎日のプラス思考になる。”また、“自分でやると決めた努力は絶対やる継続力、自分の心を動かさない、この事が結果を出し続けたのでしょう。”ということでした。

イチロー選手の記者会見の言葉で“4,000本安打を打つためには8,000回以上も凡打で悔しい思いをした。それと向き合ってきた。自分の誇れるのはそこではないか”というのも皆さんのこれから歩む人生において、大きな教えとなるでしょう。つまり、大記録達成には、数倍もの失敗があるが、それをあきらめず・折れず、自分の目標に向かって継続して努力すると結果はついてくる事を教えてくれています。

これから皆さんは社会で色々な壁に遭遇することと思いますが、あの偉大なイチロー選手であっても、挫折を繰り返し、それでも自分の心を動かさない、その結果、偉業を達成することができたのです。

結びに、初代本学学長であられた神原甚造先生が昭和25年に(64年前)詠まれた歌をお贈りしましょう。

“新しき道ひらけたり いざ行かむ いざゆき行かむ 何
ためらはむ”

皆さんの新しい門出に万感の思いで祝福し、告辞いたします。

平成26年3月24日

香川大学長 長尾 省吾